

令和7年2月28日  
滋賀県信用組合

## 第15回 経営諮問会議の概要について

当組合は、理事会の諮問機関として、外部有識者で構成される「経営諮問会議」を設置しております。本会議は、外部有識者より経営全般について助言・提言をいただき、これを経営に反映させることにより、経営の客観性・透明性を確保し、コーポレート・ガバナンスを強化することを目的としております。

過日、「第15回経営諮問会議」を開催いたしましたので、その概要につきまして、下記のとおりご報告させていただきます。

### 記

1. 開催日 令和6年8月7日（水）

2. 場所 当組合 草津支店 会議室

3. 出席者

（経営諮問委員）〈順不同、敬称略〉

鳥居 直隆 （滋賀県民信用組合 元副理事長）

藤田 義嗣 （一般社団法人 滋賀経済産業協会 相談役）

片山 聡 （オアシス法律事務所 弁護士）

（滋賀県信用組合）

青木 和夫 （理事長）

鈴木 直人 （常務理事）

平岡 博之 （常務理事）

寺田 紀之 （執行役員）

増田 裕二 （常勤監事）

#### 4. 青木理事長挨拶要旨

さて、令和5年度においては、当組合も皆様方のご支援のおかげで、大きな事故なく、業績も順調に推移致しました。貸出金は残高で期中+26億円、平残で+25億円と順調に増加しました。不動産プロジェクト融資、賃貸の収益不動産融資を中心に増加しているほか、住宅ローンやパーソナルローンについても引き続き増加させることが出来ました。

収益面では、コア業務純益が335百万円、当期利益が323百万円。貸出金利息、役務収益に注力し合わせて40百万円ほど増収となりました。一方で残念なのが預金で、地方公共団体の入札が昨年度後半から取り合いになり、高島市で70億円の入札負けしたことを主要因として、一昨年と同じ水準となりました。

ビジネスマッチングによる取引先支援については、初年度4.5百万円、2年目10百万円、前年度21百万円と順調に倍々で増加させることが出来ました。今期の貸出金は期中▲10億円となっていますが、これは4月に多くの不動産プロジェクトで順調に販売された返済となったことや、賃貸物件も売買による繰り上げ返済が重なったものです。ただ、9月には中小規模事業者向け貸出残高の目標は達成見込みです。今期の重点目標の一つである役務収益を引き続き伸ばしていこうということで、新たに融資関係手数料を4月に新たに作成したほか、不動産の担保ローンの取り扱いを開始しております。

本日ににつきましては、皆様と今後の経営強化計画はじめ積極的なご意見、又、ご指導を賜りたく、短時間でございますが、有意義な議論の場と致したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

#### 5. 当組合からの説明内容

平岡常務理事より以下の内容について説明いたしました。

- ・ 令和5年度決算概況
- ・ 経営強化計画の進捗状況

#### 4. 意見交換要旨

(1) 出席委員の皆様から以下のご意見、ご提言をいただきました。

- ・ 新しい資金需要がどのように興っているかは、未来を予測するうえで大変重要である。
- ・ 融資においては、社長の人間力をよく見る必要がある。
- ・ 経営改善支援に努力するのは良いが、全てが経営改善は出来ないのもう少し不良債権の整理に力を入れてはどうか。
- ・ 足で稼いで、お客さんの見えるところで頑張る、これが信用組合である。毎月50先でも理事長が担当して回れば、職員にも良い刺激になるのではないかと。
- ・ 銀行に負けない信用組合にするという希望を持つことは大事である。
- ・ 社会の価値観が変わってきていても、職員の世代構成がアンバランスで、年

齢の高い者が多いと、その価値観に引っ張られがちになるので、注意が必要である。

(2) 青木理事長からの回答

貴重なご提言を頂きまして、ありがとうございます。

頂いたご意見は対応可能なものから順次進めてまいりたいと思います。

今後ともご支援ご指導宜しくお願い申し上げまして、お礼に代えさせていただきます。

以上